

Q4

DPT ワクチンは、予防接種法で生後 3 カ月から実施でき、できるだけ早い時期に実施するよう勧められているのはなぜでしょうか。

A

百日咳は、乳幼児期（特に乳児期）に罹患すると重篤となり、肺炎や脳症を併発する致死的な病気です。母子免疫はほとんど期待できないので乳児期早期から罹患します。このため乳児期早期から免疫賦与することが望まれ、接種は生後 3 カ月になったらできるだけ早く開始することが望まれます。

（参照 p35, Q1）

平成 19 年（2007）以降、全国的に百日咳が流行しており、特に年長児から成人に多く患者が発生しています。これらの年齢で発症すると、典型的な症状を示さない場合もあり、注意が必要です。生後 3 カ月になったらできるだけ早めに DPT ワクチンを接種することに加えて、長引く咳を認める年長児、成人は、0 歳児に近づかないよう配慮することも対策上重要です。